Best Available Copy

DIGITAL DATA ARITHMETIC CIRCUIT

Patent number:

JP59111533

Publication date:

1984-06-27

Inventor:

ABE TADASHI; others: 01 HITACHI SEISAKUSHO KK

Applicant:

Classification: - international:

G06F7/38; G06F15/20

- european:

Application number:

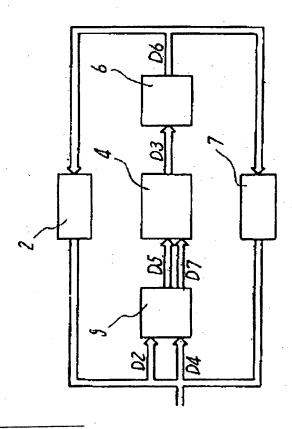
JP19820220255 19821217

Priority number(s):

Abstract of **JP59111533**

PURPOSE:To accelerate the arithmetic speed by dividing a memory part into plural groups to write the data read out by a command to the memory part of a group and the data on the arithmetic result to the memory part of the other group respectively.

CONSTITUTION: The data read out by a command is written to a memory part of one of plural divided groups of memories along with the data on arithmetic result written to a memory of the other group respectively. Thus the data is read and written at a time. For instance, the data D2 is read out of a designated address of a memory element 2 and held at an input holding part 5 together with the input data D4 to be calculated. Then data D5 and D7 are supplied to an arithmetic device 4 to perform an operation. The data D3 calculated by the device 4 is held at an output holding part 6, and at the same time the device 4 is replaced for the next calculation. Then the data D6 on the arithmetic result held at the part 6 is stored in a memory element 7. Meanwhile the replaced data is supplied to the device 4 to give an operation to the next replaced data.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

⑫公開特許公報(A)

昭59-111533

⑤Int. Cl.³
_G_06_F _ -7/38_

識別記号

庁内整理番号 - 7056—5B ❸公開_昭和59年(1984)6-月27日-

.7/38 15/20

103

7157—5B

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 5 頁)

タデジタルデータ演算回路

②特

願 昭57-220255

22世

願 昭57(1982)12月17日

⑫発 明 者 阿部正

勝田市市毛882番地株式会社日 立製作所那珂工場内 ⑩発 明 者 篠原初恵

勝田市市毛882番地株式会社日 立製作所那珂工場內

⑪出 願 人 株式会社日立製作所

東京都千代田区丸の内1丁目5

番1号

仍代 理 人 弁理士 高橋明夫

明細 響

発明の名称 デジタルデータ演算回路

将許請求の範囲

1. デジタルデータを格納するメモリ部と、デジタルデータを招待に従つて演算する演算部と、を含み、指令により与えられるデジタルデータとを演算し、演算されたデジタルデータを前記メモリ部にかけるデジタルデータ演算回路において、の群のメモリ部には指令により読み出されたデジタルデータを格納し、他方の群のメモリ部には演算をのデジタルデータを発き込み、デジタルデータの読み出しと書き込みを併行して行なりことを特徴とするデジタルデータ演算回路。

発明の詳細な説明

miller i De jamie

[発明の利用分野]

本発明はデジタルデータ演算回路に係り、特に、 メモリ部に格納されたデジタルデータを各種の演 算データとして用いるのに好通なデジタルデータ 演算回路に関する。

〔従来技術〕

デジタルデータに基づく各種の演算を行なり場合、配憶素子から構成されるメモリ部に格納されているデジタルデータを用いることが従来から行なわれている。このよりな演算処理を機能から分類すると次の2通りに分けることができる。

- (1) 演算前後のデータを残すことを目的とする。
- (2) 演算処理速度の高速化を目的とする。
- (1)の例としてはいわゆる汎用コンピュータがあ り、(2)の例としてはデジタル画像計測回路等があ 2

(1)の例としては、例えば第1図及び第2図に示されるように、予め定められたプログラム媒体より出力されたプログラムデータD1の信号P1がタイミングT1~T4で解読され、コントロール信号C1、C2によりタイミングT4で記憶業子2、3のアドレス設定等が行なわれる。記憶業子2、3のアドレスは失々信号P2、P7に示されるように設定される。又このとき読み出し許可信

号P3、審き込み許可信号P8等も設定される。 記憶案子2より出力されたデータD2の信号 P4はタイミングT5付近で確立される。 このと きもう一つの演算入力データD4の信号P5はターーイニングT-4付近ですでに確立されているので、 これらの2つのデータ信号が演算器4に供給され タイミングT6付近で演算結果のデータD3とし て確立される。続いてタイミングT7までの間に 書き込み許可信号P8によつてデータD3は記憶 案子3に格納される。

このように第1図に示される演算処理回路においては、記憶案子2.3が夫々演算前後のデータを保管することができる。しかし、第1図に示される演算処理回路の場合は演算処理行程に必ず命令解読時間T1~T4が含まれ、演算処理行程としてタイミングT1~T4の時間を娶する。そのため、前記の演算回路では単純繰り返し演算が行なわれる画像計測回路等に適用することは処理速度の面から困難であつた。

そこで、タイミングT1~T4の解読時間を必 (3)

る演算回路よりも演算時間を大幅に短縮すること ができる。

しかし、1群のデータを処理するのにタイミングT4~T7の時間を必要とするため、データの高速処理が必要とされる画像計測に適用してもその利用範囲が制限されるという不都合があつた。 (発明の目的)

本発明は、前記従来の課題に鑑みて為されたものであり、その目的は、デジタルデータの演算時間を短縮することができるデジタルデータ演算回路を提供することにある。

〔発明の概要〕

前記目的を選成するために、本発明は、デジタルデータを格納するメモリ部と、デジタルデータを指令に従つて演算する演算部と、を含み、指令により与えられるデジタルデータとメモリ部から読み出されたデジタルデータとを演算し、演算されたデジタルデータを前記メモリ部に格納するデジタル演算回路において、前記メモリ部を少なくとも2群に分割し、一方の群のメモリ部には指令

要としない演算回路が提案されている。 この演算 回路としては、例えば第3図に示されるものであ つて、第4図に示される手順に従つて演算される。

即ち、タイミングT4で配憶素子2のアドレス --- が指定され、統み出し許可信号P10によつてデータD2が信号P11として読み出されタイミングT5付近で確立する。このとき入力データ保持信号P13により被演算入力データD4と共に入力保持部5に保持される。なお、配憶案子2は書き込み許可信号P17によりデータ書き込み可能状態となる。

入力保持部5より出力されたデータD5,D7 は同時に演算器4に供給され所定の演算が行なわれデータD3として出力される。このデータD3 の信号P14はタイミングT6付近で確立される。 そして書き込み許可信号P17によつてデータ D3が配像案子2に格納される。

このように第3図に示される演算回路の場合は、 データの解説をするためのタイミングT1~T4 の処理時間を必要としないので、第1図に示され

(4)

により競み出されたデジタルデータを格納し、他 方の群のメモリ部には演算結果のデジタルデータ を替き込み、デジタルデータの読み出しと書き込 みを併行して行なりことを特徴とする。

(発明の実施例)

以下、図面に基づいて本発明の好適な実施例を 説明する。

第5図には、本発明の好適な実施例の構成が示されている。第5図において、本実施例における 演算回路は、2群に分割されたメモリ部を構成す る配憶素子2,7、入力保持部5、演算器4、出 力保持部6から構成されている。

第5図に示される演算回路は、第6図に示されるように、タイミングT4で記憶業子2のアドレスが指定され、読み出し許可信号P19によつてデータD2が読み出される。次にタイミングT5で入力保持信号P22によつてこのデータD2が被演算入力データD4と共に入力保持部5に保持され、演算器4にデータD5、D7として供給され演算が開始される。この後、入力保持部5は入

カデータの更新可能となり、タイミングT5の後 次のデータが続み出される。

演算器 4 に供給されたデータはタイミングT 4 ~T 5 の中間付近で確立され、出力保持信号 P 24 でよりデータ D 3 として出力保持部 6 に保持される。このとき演算器 4 は次の演算が可能となり、更新されたデータが入力保持部 5 から供給されるのを待扱する。

一方、出力保持部6に保持された演算結果のデータD6はタイミングT6~T7で記憶素子7に格納される。データD6が記憶案子7に格納されているタイミングT6~T7の間において更新されたデータが演算器4に供給され、次の更新されたデータの演算が行なわれる。

このように本実施例においては、データの読み出しと書き込みが併行して行なわれているので、 演算器4の動作について着目すると、タイミング T4~T7の間で2回の演算が行なわれていることになる。そのため第3図の演算回路の場合より も演算処理時間を1/2に短縮することができる。

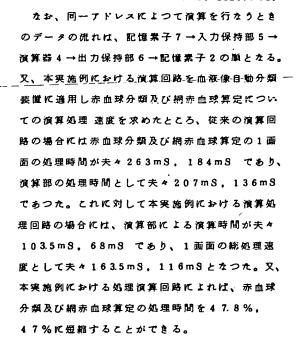
(7)

ジタルデータを格納し、他方の群のメモリ部には 演算結果のデジタルデータを書き込み、デジタル データの読み出しと書き込みを併行して行なりよ りにしたので、デジタルデータの読み出しと書き 込みが交互に行なわれる演算回路の場合よりも演 算処理時間を短縮することができるという優れた 効果がある。

図面の簡単な説明

第1図及び第3図は従来の回路構成図、第2図 及び第4図は夫々各回路のタイミングチャート、 第5図は本発明の一実施例を示す回路構成図、第 6図は第5図のタイミングチャートである。 2,7…記憶柔子、4…演算器、5…入力保持部、6…出力保持部。

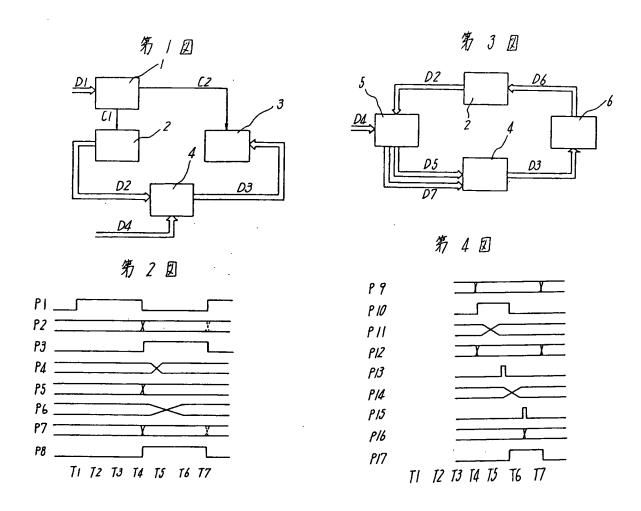
代理人 弁理士 髙橋明

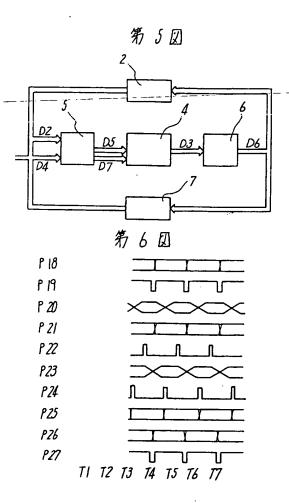


〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明によれば、デジタ ルデータを格納するメモリ部を少なくとも2群に 分割し、一方の群のメモリ部には読み出されたデ

(8)





This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problems Mailbox.